

画像の認識・理解論文特集の発行にあたって

画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長 内田 誠一



本特集は、2016年8月1日から4日にかけてアクトシティ浜松（浜松市）にて開催された画像の認識・理解シンポジウム（MIRU）に関連して企画されたものである。MIRUとは画像認識・理解分野では国内最大規模の学術集会である。1992年に第1回が開催され、2016年で19回目を迎えた。今回は700名を超える過去最大の参加者数となった。

MIRUでの発表方式には、査読付き発表、一般発表、そしてデモ発表がある。査読付き発表については、50件の応募があり、このうち19件が口頭発表として選ばれた。残る31件と一般発表186件の合計217件がポスター発表となった。これにデモ発表17件が加わり、合計発表件数は253件となった。以上に加え、新井紀子先生（NII）、河原林健一先生（NII）、小林正啓先生（大阪弁護士会）による特別講演、チュートリアル講演5件、海外著名会議発表者による招待講演25件、108名が参加した若手プログラム、更に音学シンポジウムとの連携特別企画「MIRU×KIKU」があり、非常に充実したプログラムとなった。

最近のMIRUでは、非公開のExtended Abstract集のみを出版物としている。すなわち、IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications (CVA) に掲載される査読付き発表の一部を除き、公表される研究発表はない。Extended Abstractは標準2ページであり、最大4ページである。非公開制及びこのページ数制限は、雑誌論文や国際会議論文との二重投稿になら

ないことを意識したものである。

さて本特集では、MIRUでの発表内容に限定せず、画像の認識・理解に関わる研究に関する論文を広く募集した。その結果、総数13編の論文が投稿された。これらの中から4編の論文が採録に至り、本特集で掲載されることとなった。査読及び採録判定は極めて厳正であり、いずれも質の高い論文を採録することができたと自負する。なお、4編中2編はMIRUにおいて口頭発表に選ばれた研究内容に関するものであり、本誌では「MIRU2016推薦論文」として掲載されている。

最後に、優れた研究成果を投稿して下さった著者の方々、投稿論文を丁寧に閲読して頂いた査読委員の方々、査読結果を踏まえて厳正な審査をして下さった編集委員の方々、日浦慎作編集副委員長、そして編集委員会実務の円滑な進行に大変御尽力頂いた編集幹事の小林匠氏、山下隆義氏、木村昭悟氏、更に学会事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。

内田 誠一（正員：シニア会員） 平2九大・工・電子卒。平4同大大学院修士課程（情報）了。セコム（株）勤務を経て、現在、同大システム情報科学研究院情報知能工学部門教授。博士（工学）。画像パターン・時系列パターンの解析・認識に関する研究に従事。平15本会パターン認識・メディア理解研究会研究奨励賞。平18画像の認識・理解シンポジウム最優秀論文賞（MIRU長尾賞）、平19 IAPR/ICDAR The Best Paper Award、平20本会論文賞、平22 ICFHR Best Paper Award、平23 MIRU優秀論文賞、平26本会情報・システムソサイエティ活動功労賞、平28データサイエンスアワード、各受賞。IEEE、情報処理学会各会員。

画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員 副委員 幹事 委員	長	内田誠一	山延山	下原隆義	木向村昭悟	鳥堀井秋彦	弘一久太
	事	日浦林匠	・山延山	・山延山	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
員	員	増澤吉田	・志亘子	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
長	員	中藤新岡	・弘直隆一	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
事	員	小野口	・三則	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
員	員		・三則	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
員	員		・三則	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
員	員		・三則	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
員	員		・三則	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太
員	員		・三則	・光靖介	・木向村昭悟	・鳥堀井秋彦	・弘一久太